



中小企業診断士 山田 英生
(一社)埼玉県中小企業診断協会

【「SDGs疲れ」とは？】

持続可能な社会の実現に向けて、SDGsへの取り組みが広がりを見せる中、「SDGs疲れ」「サステナブル疲れ」といった言葉も見聞きするようになりました。これは、SDGsに関する情報や活動に疲れや飽きを感じる状態を指します。「SDGs疲れ」を引き起こす要素について整理してみると以下のようになります。

SDGsの特徴	疲れにつながる要素	陥ってしまう状態
目標の範囲が広く、問題の関連が複雑であること	情報過多で何が正しいかわからない	先進的事例と比較しての劣等感や完璧に至れない無力感
長期の達成目標であること	成果がすぐに見える形で表れない	取り組みの意味を見失い、継続できない
事業的な利益とのつながりが見えにくいこと	報いのない社会貢献や制約と位置付けてしまう	これまでの業務のやり方を優先する
社会課題としての外部性	他の誰かが解決すれば、その恩恵は得られる(フリーライダー問題)	自社が労力をかけたり、制約を受け入れたりするなどの取り組みに消極的となる

【「SDGs疲れ」を乗り越えていくためには】

自社がどういったスタンスで関わっていくかを一度再定義してみるとよいかもしれません。

[1] チャレンジャー的スタンス

社会課題解決に積極的に関与し、対外的なアピールを行ったり、取り組みのパートナーを求めたり、ビジネスとしての組み込みを考えたりする場合

→自社の取り組みがSDGs目標に寄与する因果関係を説明できることを重視する。

取り組みの進捗状況を表現できる『指標』を定義してモニタリングを続ける。そして、SDGsの各目標への自社の寄与を定量的に紐づけて見えるようにする。

[2] フォロワー的スタンス

SDGsの理念に共感し、社会課題について悪化させないという形で協力をしたい場合

→無理や制約のない範囲で取り組み、継続することを重視する。

SDGsの各目標と現状を大まかに知り、自社の事業が問題を引き起こしたり拡大したりする部分がないかについて確認してみる。

また他社の取り組みについても、スタンスの違いを寛容に受け入れて、相手に「SDGs疲れ」を感じさせないようにすることが社会全体としての取り組みの進展には求められているのではないのでしょうか。年々変わる状況や動向、中小の事業者が置かれる立ち位置などを踏まえた取り組みをお考えの際には、埼玉県中小企業診断協会へぜひご相談ください。

【問い合わせ先】

(一社)埼玉県中小企業診断協会
ホームページ：https://sai-smeca.com/
電話：048-762-3350
Eメール：rmcsai@nifty.com